

# 公益社団法人 福島県看護協会 会津支部だより 第14号

発行所  
公益社団法人福島県看護協会  
会津支部  
発行責任者：山田香代子  
発行者：広報委員会

**支部長挨拶**  
福島県看護協会 会津支部長  
山田香代子



今年度より会津支部長を務めさせていただきます。会員の皆様におかれましては、日頃より県看護協会、会津支部活動にご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。

県看護協会は、重点事業について事業方針①あらゆる場で役割発揮できる看護職の育成支援、②地域包括ケアシステム推進のための看護機能の強化、③看護職の確保・定着のための働き続けられる職場環境づくりの推進、④福島県看護協会組織・経営基盤の強化について、それぞれ重点事業を掲げています。会津支部に於いては、事業方針②の「看護管理者と行政保健師の支部におけるネットワーク作り」として、看護責任者懇談会を開催しました。県看護協会専務理事と会津保健福祉事務所統括保健師の講演を通して、現状を理解するとともに意見交換を行いました。次年度から取り組む会津地域の健康問題に対する看護活動のための関係づくりに関すること期待しております。

地域の看護活動のまちの保健室では、みちの駅での開催はできましたが、「健康まつり」が中止となり、活動の場の検討も必要となってきています。研修会や看護研究発表会も規模縮小とならざるを得ませんでした。次年度は、実施方法について検討して参ります。

最後に、県看護協会会津支部では、会員一人ひとりが質の高い看護を提供できるように活動していきたいと考えております。コロナ禍で心休まる時もない状況ではありますが、会員の皆様のご協力をいただきたいと思います。

## 教育委員活動状況 今後の計画について

教育委員 佐藤文久

教育委員の活動としては、年二回の研修会と年一回の看護研究発表会を開催してきました。しかし、新型コロナウイルスの影響から、ここ二年間、研修会や看護研究発表会を開催できない状況が続きました。今年度もコロナ禍にある状況に変わりありませんが、感染状況に目を配りながら研修会や看護研究発表会を開催する予定です。研修会については、福島県看護協会の共通テーマである「意思決定支援」について行う予定です。内容として、緩和ケア認定看護師の先生を講師に招き、「意思決定支援の方法を学び、各職場で実践に活かすことができる」をねらいとしております。看護研究発表会については、今年度七題の演題募集があり、十二月の発表会を前に特別委員の先生方と直接、査読・個別指導を行いました。当初、多くの会員の皆様に参加していただき、研究の成果を見ていただきたいところでありましたが、新型コロナウイルスの度重なる感染拡大の影響を踏まえ、やむを得ず今年度は規模を縮小し開催する運びとなりました。例年同様、看護研究発表会集録集は各施設に配布させ

ていただきますので、目を通していただき研究の成果を見ていただきたいと思えます。今後、いつまでこの状況が続くかわかりませんが、研修会や看護研究発表会においても皆様に参加していただけるよう企画していきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

## 今後の地域看護活動について

地域看護活動委員 五十嵐淳  
地域看護活動を担当しております、五十嵐です。

我々の主たる活動である「まちの保健室」は、昨年同様に感染拡大防止の観点から、積極的な活動を展開できないのが現状です。

会津若松市主催の健康まつりの開催も、健康をテーマに開催するイベントであることから、現在の感染状況では開催はふさわしくないと判断がされ中止となりました。

まちの保健室の活動を通して、地域の方々には健康に関する情報の発信の他に、看護師の活動や人材育成についても伝えられる機会でしたが、相次ぐ開催の中止により、そのことも実現できておりません。

今後は、感染状況をみながら、可能な

限り地域の皆様との関りが多くなっていることを願うばかりです。そして、行政とのつながりを深め、地域で行われる健康に関するイベントや講演会などへも出席させて頂き、医療、福祉、介護、在宅とのつながりを持ちながら、地域の皆様に近い活動を実現したいと思っております。

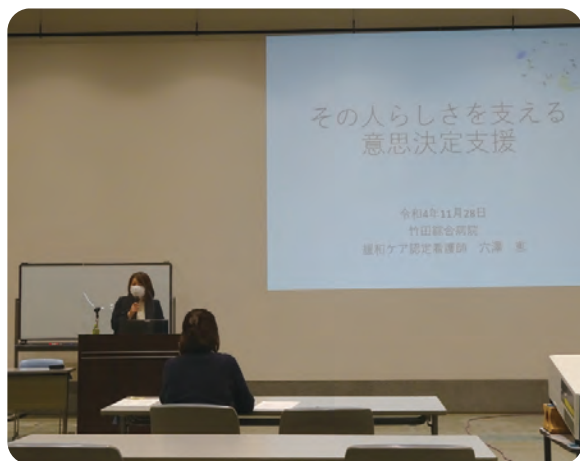
今後とも活動へのご理解とご協力をお願い致します。



## 令和四年度研修会

広報委員 酒井美紀子

テーマ  
「その人らしさを支える意思決定支援」  
令和四年十一月二十八日アピオススペースにおいて竹田綜合病院緩和ケア認定看護師の穴澤恵美先生をお招きし意思決定の関わりについて事例を交えてご講演を頂きました。



講演の中で意思決定支援において私達に出来ることは、どんなことが心配だと思っているのかじっくり話を聞いてみることや相手が知りたいと思う情報を受け取りたいタイミングで誠実に伝えることであり、どう生きるかを支えることが大切なケアとなる。さらに、本人が自分の状況をどのように受け止め、どのように感じ、これからの生活をどのようにしていきたいかという「本人の意思の尊重」が意思決定支援に際して最も重要であると話されました。私も意思決定の場面に関わったとき、家族の意見を聞き入れることが多々あるように感じ振り返った時にどうあるべきだったのか自身に問いかけることがあります。今後も答えは出ないながらも、患者が意思表示できるような信頼関係を築くことが出来るよう支援していきたいと思えます。



# 令和四年度 看護責任者懇談会

広報委員 市原 智文

令和四年十一月アビオスペースにおいて看護責任者懇談会が行われました。参加者は病院や施設の責任者等十五名で、二名の講師を招き講演頂きました。

第一講演として、福島県看護協会専務理事 橋本ゆみ先生より「福島県看護協会の動き」のテーマで講演を頂きました。福島県看護協会の事業内容や新たな取り組みでは、新型コロナウイルス感染症に対応したハイブリット研修会が実施され、感染防止やスキルアップが図られており、人材派遣活動では人材育成と感染拡大地域への派遣が行われました。

協会の現状では、会員数は増加しているが新規入会者は減少傾向にあるため入会促進の必要性があります。また、継続入会の維持も重要となることが説明されました。

第二講演は、会津保健福祉事務所主幹 須藤桂先生より「保健福祉事務所における保健師の活動の実態」のテーマでお話を頂きました。活動ではまず、人材育成の重要性があり、学生の実習指導や保健師の現任教育・職員育成について説明がありました。また、生活習慣病予防や喫煙対策など市町村への支援活動、難病患者・被災者への健康支援についての活動状況がありました。そして、高齢者支援では地域包括システムの構築支援、妊産婦・小児慢性特定疾病対策・精神障害者支援について現状を頂きました。最後に感染対策では、新型コロナウイルス感染症における厳しい状況の中、保健所全体で対応をされているお話を頂きました。フロアからは、新型コロナウイルス感染症対応についての質問があり、病院・施設・保健所・看護協会それぞれの対応での大変さや対応策を共有でき有意義な懇談会となりました。



## 看護研究に関して

特別委員 永井 純

本年度は五施設から七題の看護研究発表がありました。そのうち質的研究は①終末期における意思決定支援②糖尿病患者のフットケア③離床センサー選択の実際④コロナ禍において面会制限がある中での認知症患者対応⑤環境整備についての意識と行動の変化、以上五題でした。量的研究は①血圧自己管理に関する実態調査②術前カンファレンスの効果、以上二題でした。(いずれもテーマ概略)

其々の研究テーマは日頃の看護実践の中での疑問を出発点にして吟味、選定されており、だれもが共感を持てるものだと思います。取り組みの結果は図表を用いてわかりやすく示され、考察は自らの疑問に答え今後の発展的な研究へ導く示唆に富んだ内容でした。

さて、ここ数年コロナ禍が続いています。このような状況下でのみ可能な研究もあると思います。その意味で今回の研究は今後貴重な資料となるのではないのでしょうか。また量的研究では統計的な分析手法を用いますが、基礎教育だけではカバーしきれないという現状等もあり、多くの方にとっては馴染みがなく、敬遠されがちです。量的研究に取り組まれた研究者は「一つ一つの疑問点を調べながら進めました」と多忙な看護実践のなかで積極的に学びを深めていらっしゃいました。今回、看護研究発表に関わるなかで、あらためてその重要性和難しさ、そして継続教育の大切さを実感いたしました。

# 職場紹介

## 会津中央病院 透析センター

係長 安部 幸也

会津中央病院は第三次救命救急センターを有し、災害拠点病院として二十四時間、三百六十五日会津圏内の医療を担っている中核病院です。

その中で令和四年七月四日に新しく透析センターとしてリニューアルされ、日々の透析治療をより安全に行えるように透析装置も最新式へ入れ替え、透析管理システムと電子カルテを連携させ、急な入院治療でも院内で透析情報の共有を図りました。ベッド数も以前の三十床から五十床へ増床し、現在三十五床で運用しています。個室も四室に増やしました。また個人のプライバシーに配慮してベッドの間隔を広めに設計し、日々の透析治療をより快適に受けられるよう各ベッドにテレビを設置、無料Wi-Fi環境などアメニティも充実させ、透析治療の前後でゆっくり過ごせるように広いサロンも完備致しました。

また、これからの高齢化社会のニーズにも対応するため、送迎サービスも開始しております。

当院では透析導入開始から患者さん一人一人に担当看護師を設定し、常に安全な看護を提供できるよう努め、安心して透析治療が受けられるように専念しております。また維持透析だけではなく、院内での重症な急性血液浄化療法にも幅広く対応し、他院からの紹介入院治療や手術、検査などの透析が必要な患者さん、旅行や帰省の方も受け入れ透析を行っております。

今後も「やさしさ、思いやりの心が伝わる看護」を理念として地域医療に貢献していきたいと思っております。



## トピックス アイツピーナツマートさん

今回ご紹介するのは喜多方駅から徒歩5分程のところにある『アイツピーナツマート』さんです。

店頭には会津産のピーナツを中心とした商品が数多く並んでいます。おすすめは「ピーナツソフトクリーム」です。ピーナツ味のソフトクリームで上にとった砕いた塩ピーのトッピングがアクセントとなり、風味・食感が楽しめる一品です。他にもピーナツを用いたチョコ・パイ・プリン、納豆や味噌などもあります。寒い時期はあったかいお茶とピーナツきんつば。暑い時期はキンキンに冷えたアワアワと塩ゆでピーをおすすめします。

これからの季節、喜多方ラーメンでおなかを満たし、しだれ桜を散策して、お帰り前のひと休憩にぜひ、アイツピーナツマートさんに足を運んでみてください。しだれ桜歩道からアイツピーナツマートさんまでは徒歩10分程です。桜色に染まる会津でおいしいものを食べて、コロナストレスを癒してみたいかがでしょうか。



喜多方市字天満前8930  
TEL 0241-23-7630  
営業時間：平日 9:00~17:30  
土・日 9:00~17:00  
定休日：元旦

## 編集後記

コロナ禍が収まらない中ですが、会津支部では開催方法を検討しながら様々な活動に取り組みました。その内容を支部だよりにお伝えすることができました。お忙しい中、原稿を寄稿して頂いた皆様には深く感謝致します。

広報委員

市原 智文・山田いづみ  
酒井美紀子・阿部こずえ

